

平成 27 年度 第 1 回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：平成 27 年 12 月 26 日（土）

9：00～15：30

会場：市役所 4 階 第 2 委員会室

出席者：井上委員、齋藤委員、鈴木委員、園委員、武井委員、細田委員

（欠席者：高田委員）

鯖江市：齋藤地方創生戦略室長、齋藤室長補佐、今宮主事

1 開会

1. 委員紹介…事務局より紹介
2. 正副委員長選出…事務局一任により、委員長に武井幸久委員、副委員長に井上武史委員を選出
3. 行政評価制度概要…事務局説明
4. 外部評価実施手順…事務局説明
5. 外部評価対象施策抽出…事務局説明、委員了承

事務局：事前説明のとおり、事務事業抽出要領に則り、36 事務事業を抽出し、委員全員の抽出結果を集計し、外部評価対象事業を 6 事業抽出する。

委員：了承

※抽出作業については、各委員に事前に依頼済みのため、委員会開催前に事務局に提出済み。

2 外部評価実施

① 公民館合宿通学事業（所管：生涯学習課）

<概要説明>（矢部課長、岩田参事出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：スケジュールは？目的に沿った内容になっているか。

所管課：（各地区のしおりを配布）しおりに沿ってスケジュールを説明。

委員：ボランティアが児童に対して、共同生活の中で「だめなことはだめ」「こういうほうにしたほうがよい」と躰けることがあるが、子どもが聞いてくれないこともある。地域の子供は地域で育てることが必要だという思いでやっているが、親からの評価を聞いたことがあるか。

所管課：保護者、ボランティア、子どもにアンケートをとっている。一時的かもしれないが、手伝いをしてもらえるようになったなど、お声をいただいている。

委員：親からそういう評価があるのなら、継続する意味があるが、子どもの意識を変える必要がある。

所管課：合宿がきっかけづくりになれば。地域の人と顔を合わせることもきっかけになる。

委員：①立待、豊は耐震工事で公民館が使えない時に、青年の家を使用して実施したが、今年、耐震工事を理由に中止した鯖江地区はそのような提案がなかったか。

②4年時に宿泊することに親からの抵抗はなかったか。

所管課：①青年の話は出た。地区で協議した結果である。他市ではお寺を使用したこともあるらしい。②直接聞いたことはないが、2泊から1泊に変更した地区もある。国からは4泊というスキーム。

委員：今後も各地区の参加を促していくのか。

所管課：そのつもりである。皆さんには良い事業だと認識いただいていることもあり、今後も参加の働きかけをしていきたい。

委員：市の主旨とはずれてしまうのでできないということもあるか。

所管課：それはないと考えている。

委員：ボランティアの不満は聞いているか？

所管課：不満は聞こえてこないが、毎年同じ方が参加しているため、「またやるのか」といった声は聴いている

委員：どのイベントでもそうだが、毎回同じ人が参加している。イベントを継続していくには、違う方法を模索すべきでは。

所管課：児童と地域住民が交流するという点では、他の方法もある。宿泊という面では意義がある。

委員：アンケートをとっているのであれば、まとめたものを提出すべきと考える。ボランティアの気持ちが薄まっているところもある。本来の事業の主旨をボランティアのしっかりと伝えるべきでは。ボランティアも惰性になってきている。

所管課：多くのボランティアが参加することに意義があると考えている。アンケートについて各公民館にフィードバックし、反省会を行っているところもある。

委員：神明地区が40人と少ない理由は。定員を設定しているのか。

所管課：国から40人が適切だと指示。キャパの問題もある。ただ、こちらから、定員を設定している訳ではない。

委員長：次につながるような仕組みか。(反省点が次年度に通じる)

所管課：アンケートの結果は公民館を通じて学校のほうにもいっているはず。

委員：合宿経験者が手伝いに行くというのはどうか。後々まで、子どもたちの成長に関われるようにすればよいのでは。(成人、中学生など)

所管課：可能であればやりたいが、なかなか難しい。必要性は感じている。

委員長：国、県の補助がなくなった場合の対応は。

所管課：なくなった場合も継続の考え。合宿というかたちでなくても、児童と地域住民が交

流できるものを検討していきたい。

<方向性判断>

委員長：維持となっているが、皆さんの意見を聞く限りは改善か。

委員：このままでは維持できないという印象。ボランティアの負担が大きい。

委員：維持するなら維持できる方法を模索していくべきだ

委員長：事務改善として付帯事項をつけてはどうか。継続を前提とした改善をとということ。

齋藤室：ボランティアの方の関わり方を見つめなおすという点で、改善をとということかと思う。

② やっしまつり事業交付金（所管：生涯学習課）

<概要説明>（矢部課長、岩田参事出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：予算とは、祭りのみのお金か。活動費としてか。

所管課：祭りに。ポスターなども。

委員：どこに使われているか。

所管課：予算は400万。報償費100万以上。出演者と模擬店。舞台、簡易トイレなど委託費も100万程度。あとはポスターやトラックなど

委員：祭りだけでその金額は大きいのでは。予算があるだけ使っているように思える。

所管課：予算は下げている。昨年実行委員会は予算を下げた分だけ赤字が出ているが、予算内で行うことを努めてほしいと思っている。地域に根差したまつりなので、なくすことはできないと思っているが。

委員：いろんな祭りと重なるというが、ほかの祭りと一緒にやるというのは。

所管課：ご縁市誠市と一緒にという打診をしたところがあるが、本町の通路を使用することについて、協力が得られていない。他市の祭りとも時期が重なっている。

委員：一緒にやってくれそうな祭りにこっちから声をかけるべき。

所管課：市民主役事業としてやることも検討したい。

委員：募集をすることはよい。

委員：目標値について、数が一定だが、増やすことの努力は。祭りより、子どもたちなど底辺拡大に向けた予算の使われ方をすべきでは。いままでのようなやり方では発展しない。

所管課：小さい子どもや学校には指導を行っている。協賛している団体が弱体化しているという認識はある。いろんな団体に声掛けし、参加を促したいが、今の実行委員会では難しい。過去には企業にも声掛けしたが、今はできていない。実行委員会の体制も見直すべきところがある。

委員：①実行委員会の立ち上げが遅い。改善されていない印象である。毎年祭りをやるつ

もりであれば、実行委員会の立ち上げをもっと早めるべきだ。②図書館に踊り方の資料を求める人が多くなった。資料が少ないので取り合いになっている。各学校に資料を広めるなど、そういったことにも努めてほしい。③鯖江の伝統的な踊りとして残るのは良いが、鯖江地区だけの祭りとなっている点もある。他地区も巻き込むような仕組みを作って、裾野を広げてほしい。

所管課：よく言われていることだが、実行委員会の立ち上げが遅く、他地区を巻き込む時間がないという現状。主管を変えてしまうというのも手だが。すでに配布しているが足りないようであれば増やしたい。

委員長：若返りを図り、賑わいを。よさこいは成功している。伝統と新しいものの融合を。踊りということであれば、何かグレードアップして発展していかないと続かない。

委員：よさこいとしての参加者にもやしきを踊ってもらうなど工夫を。

<方向性判断>

委員長：かなり改善が必要か。このままでは続かないという印象。内部評価では維持となっているがいかがか。単純に維持では難しい。予算については内部で決めてもらえばよいが、主管を変えるなど荒療治が必要。実行委員会の組織替えなど、事業の方向性は事務改善としたい。(委員一致)

③ 男女共同参画推進大会（フェスタ）開催事業（所管：女性活力・人権推進室）

<概要説明>（葛野室長、服部参事出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：男女平等という認識はすでにあると思うが、フェスタの対象は。

所管課：対象が明確に誰かというは難しい。大学生はすでにあたりまえという感覚というふうに聞いたことがある。アンケートでは、参加した子どもたちが自分らの親に話を聞かせたいといった内容も見受けられる。フェスタの中で講演会も行っているが、こういったテーマで行うかも考えているがなかなか難しい。

委員：今年の実績は。

所管課：評価調書にあるとおり、フェスタには463人が参加した。

委員：提案型事業として行っているが、実施団体の評価も含めて事務事業を行ったか。

所管課：事務事業評価の目標も実施団体には伝えている。事業自体の評価もあるが、事業の進め方、浸透の仕方という点も強くある。

委員：ある程度男女平等が浸透していると、女性が男社会を理由に逃げているということもある。女性自身の意識を変えていくということもフェスタで発信してほしい。

所管課：アンケートでも「浸透していない」という意見があり、最重要課題としている。各区長も女性の登用をお願いしている。副区長や会計係が最近多くはなっているが、意思決定の役に就いているというとまだまだだと思っている。

委員：職場に向けても啓蒙していく必要があるのか。行政だからできるということもあると思う。

<方向性判断>

委員長：まだ始まって時間もなく進化中ということで、地道に続けていければ。男女平等の意識が常識となっている職場もある中で、そういったことが反映されることも考えてもらえれば。女性の意識改革という点はフェスタでどう活かされるかも。

鯖江市として男女共同参画のビジョンを、指定管理団体と見つめる必要がある。目標像としてのビジョンを含め継続して行ってほしい。(方向性は維持としたい)

委員：集客の努力が足りない。動員として団体の割り当てがあり、団体に属していないとフェスタに参加できないような雰囲気がある。一般市民の集客がどれくらいあるか疑問がある。維持は必要だが、集客の面でもっと考えてほしい。

委員長：維持としての補足で含めたい。一般の方にどれだけ浸透していくかを考えてもらい、来年度は維持とした。

④ さばえ菜花まつり開催事業

<概要説明> (西村課長出席)

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：チラシ(裏面)の内容について、菜花というよりはイベント内容が協調されたものとなっている。菜花を周知したいのか、イベントそのものに来てほしいのか。

所管課：目的は菜花を周知したいためにイベントを開催している。まずイベントに来ていただいて菜花のことを周知したい。

委員：菜花に対する理解向上につながるのか。

所管課：チラシには書いてないが、今年本部横にパネル等を展示した。菜花無料配布をパネル前で行うなど、見ていただいているのではないかと。

委員：①さばえ菜花の生い立ちは。以前から特産物としてあったのか。②さばえ菜花市民ネットワークの解散の経緯は。

所管課：①平成17年ぐらいに、吉川地区の農家が青森の菜花と三重の菜花を掛け合わせてさばえ菜花を作った。21年には菜花を漉き込み、さばえ菜花米を作った。好評ということもあり、鯖江の特産物としてブランドを確立した。それに伴い、種の増産を図った。②菜花まつりは実行委員会、ネットワークも運営に参加。さばえ菜花が十分に周知されたことに伴い、ネットワークは解散した。

委員：市場にもっと出回らないと、ブランド化したとは言えない。まつりでもっと広めてほしい。

所管課：菜花自体を作るのが大変ということもある。個人で販売しているところもあり、そういったところを応援することも販路拡大につながると考えている。農協とも協力

しながら、販路拡大に努めていきたい。

委員：イベント食堂で出る菜花米以外のメニューは通年どこかのお店で食べられるものか。

所管課：メニューには生の菜花を使用している。生というと11月から3月までの冬野菜。

このイベント用に、栽培農家に菜花を作ってもらっている。通年出せると良いが、定番メニューには至っていない。

委員：旬はあるのは理解できるが、旬の時期にもお店で出せるようにすべきでは。

所管課：実行委員会をとおして、お願いしたい。

委員：堤防に菜花を植えるのはどうかという話も聞いたことがある。今後花が定着しない場合もあり、まつりの継続性は。

所管課：花の生えが悪いということはある。2度撒き3度撒きをするなど試行錯誤はして努力はしている。以前堤防に植えることの是非（無用な木々を植えることにより、根が甘いとモグラが発生し、地盤が緩くなるため堤防の機能が低下する恐れがある。）が報道されたこともあるが、県の土木事務所と年三回調査して、県には納得してもらっている。今後継続できる見込み・

委員：給食では出しているか。

所管課：給食畑から食材として納めている。

委員：種拾いや、刈込、種撒きは大変じゃないか。職員も休日返上で頑張っていると思う。

所管課：まつりは市民の方に菜花を啓発する目的で開催しているということもあり、職員には高い意識で行ってもらっている。

委員：子供たちの環境教育、総合学習の一環で取り組めないか。例えばどんぐりの植樹のように、体験を通して理解を。

所管課：草刈は子供たちには難しい。

委員：場所は鯖江中学校の場所が適切か。

所管課：堤防に降り口があり便利、鯖江中学校をバスの乗降にして安全。場所を変えることを検討したこともある。

委員：川風がきついし、天候に左右される。

所管課：実行委員会に対して会場分散をすることを投げかけたことがあるが、実行委員会では河原で行うことに強い思いがある。

委員：目的が菜花をPRすることと食べることあるが、どちらが主なのか。食べることだけなら、嚮陽会館でもできる。交通の便、イベントのことを考えるといい場所でもない。他に植える場所がないのはわかるが。

所管課：舟枝、東鳥羽では菜花米として植えている。そこも農道であり駐車場がない。

委員：新横江のコスモスのイメージもある。

所管課：風は強いが、場所的には河川敷が最適。晴れば。

委員：余談だが、菜花米はおいしい。

委員長：交雑が心配。種の管理、安定性を植物の専門家の意見を一度聞いてほしい。近年オ

ウキンケイギクなど外来種がはびこっている。菜花も外来種なので種の安定性のために調査を検討してほしい。

所管課：田んぼに植えた種も、堤防に撒いている。種が混じるようなら、田んぼで植えた原種のみを堤防に植え、堤防の種は刈り倒すなど、種の統一性を図っていききたい。田んぼの種の数は十分にある。

委員：ほかのイベントと一緒にできないか。

所管課：会場分散の話は出たことがあるが、スケジュール的に難しい。誠市やつつじとは若干時期がずれている。検討をしたことがあるが、花ということで他と一緒にやるという点でも難しい。

委員：菜花まつりというイベントは人を集めるという点だけにおいては菜花とは関連がないので、鯖江の既存のイベントと組み合わせることにより相乗効果が生まれると思う。

所管課：十分に考えたい。

<方向性判断>

委員長：みなさんの意見では「維持」が多いように見受けられた。維持のための付帯事項をつけたい。他のイベントとの連携、維持していくための花の種の管理を徹底すること、またはそれを明確にしてほしい。専門家の意見も取り入れて。この付帯事項を条件に維持という方向でいかがか。(委員一致)

⑤ 日野川砂礫河原再生事業

<概要説明> (塚本課長、橋本参事、鈴木補佐出席)

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：資料では菜花まつりと併せて実施とあるが。

所管課：平成24年度に菜花まつりでEボート体験を行った。4月は寒いということもあり、夏の時期にずらしている。

委員：まちづくりサポーターとして詳しく。仕事か。提携団体の選定は。

所管課：(橋本参事) 基本業務。市民団体からの呼びかけや、担当課から団体の推薦がある。砂礫河原は土木課から。2年に1度公募している。

委員：河原の再生に終了はあるのか。

所管課：ここ数年は手を入れないといけないのが現状。今後、人為的ではなく自然の流れで砂礫河原を戻すために専門家の意見を取りいれたい。

委員：イベント自体は、砂礫河原でなくても行えると思うが、河原再生事業とイベントをどのように結び付けているか。

所管課：ふるさとの河原(砂礫河原)を知ってもらうためにイベントを実施している。その場所で行うことに意義がある。

委員：再生する場所が、日野川のシンボリックな場所なのか。

所管課：(橋本参事) 菜花まつりの場所とつながっている。駐車場もあり、日野川のシンボリックな場所だと考えている。石田橋では鮭の放流も行っている。この2か所を川に親しむ場所として投資している。(塚本課長) 有定橋を中心に河川公園があり、市民が親しむ場所として、シンボリックな存在となっている。

委員：ここが一番大事ということですね。

所管課：全部できると良いが、予算もかかる。市民が直接親しみ、砂礫河原を思い出せる場所としてここを中心に行っている。

委員：手洗いや、着替えの場所はあるのか？

所管課：有定橋下流の公衆トイレがある。着替えは事前に行ってもらっている。夏なのですぐ乾くということもある。

委員：20組の親子に対して40万という予算は多い。参加料をとっていても手厚い印象。まちづくりサポーターもいる。

所管課：安全管理要員を呼ぶのに4万円の委託費がかかる。今後そういう委託費が削れる可能性はある。

委員長：①河川は国土交通省の管轄管理と思うが、勝手にやっていいのか。②砂礫河原の再生というのは、プラスとマイナスで評価がわかる。福井の一乗谷川は緑化をすることで表彰をうけている。事業を市民と川のかかわりに重点をおいて事業を変えていったらどうか。砂礫河原の再生を名目に川に親しむイベントを行っているように思える。

所管課：①国の管理からははずれている。丹南土木事務所と通じながら行っている。②市民に親しまれることを第一の目的としている。市民に馴染むような名称を考えたい。

<方向性判断>

委員：基本施策では、災害に強い河川等を整備するとあるが、それと離れているように思う

所管課：治水という観点も含めて、市民に親んでもらえれば。事業名称を工夫する必要がある。

委員：事業の目的を事前に伝える必要がある。ミニレクチャーなどを通して。ただ子供遊ぶイベントになっているように思う。

所管課：事業の目的や中身を事前に知ってもらって参加しやすい環境づくりをしたい。

委員長：提案だが、砂礫河原再生を国土交通省と連携して、鯖江が先行して行うことにより鯖江ブランドとして行うのはどうか。(イベントについて) 水に親しむことを人集めの段階では周知していない、砂礫河原の再生とは切り離しては。

評価は「事務改善」として、河川の管理とイベントの開催は切り離す方向で検討できないか。

所管課：事業の分離的執行、河川管理者への働きかけはこれから十分に行っていきたい。

委員長：「事務改善」。砂礫河原再生事業の中で治水部門は本格事業として行い、イベント部

分はそれと切り離し、その中で川のことを知ってもらうイベントにしてもらいたい。

⑥ 2K540 鯖江ものづくりいいもの見本市

<概要説明> (青山課長出席)

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：平成24年からとあるが、以前PR活動をしていたか。

所管課：以前からあったが、固定化しイベント会社と一体とするようになったのはこの年から。

委員：PR期間が1週間か。

所管課：実際お店をやっているのは3日間。HPなどの告知で1週間。

委員：ふらっと立ち寄る場所なのか、これを目的にくるような場所なのか。

所管課：リピーターも多い。JR東日本の仕掛けで、“ちゃばら”“B級グルメレストラン”など食に特化したスペースで人を呼び込んでいる。

委員：スタンプラリー成功者4人と少ないと思うが、ハードルが高いのか。

所管課：すべての体験を回るのは難しいからでは。1つの体験で3、40分かかる。

委員：もうちょっとハードルを下げては。

所管課：各コーナーを回ってもらう工夫を考える。

委員：出店に対する負担金は。

所管課：市で負担。職人の魅せるところには謝礼を、販売については組合の負担。

委員：秋葉原の近くだからIT関係の分野も視野に入れては。

所管課：アプリの活用など工夫していきたい。外人も多い。

委員：家賃が安い。

所管課：4日間で20万弱。あとは備品の借用。

委員：ふるさと納税と連動しては。

所管課：ふるさと納税のPRも行っている。併せて移住定住も。

委員：鯖江以外の自治体が2Kでイベントは。

所管課：把握はしていないが、“ちゃばら”は全国の市町県が店を出している。イベントスペースも行っているのでは。自治体とは限らないが。

委員：見本市に来たくて来た人が何人いるのか。なにかやっているからふらっと来たという方が多いのか。

所管課：検証していない。リピーターが何人かいることから関心があるのでは。

委員：いつも同じ時期か。

所管課：今年は10月、去年は9月。早いと暑いし、遅いと寒い。体験の時期には適している。

委員：PRはJR東日本のHPか。リピーターは同じような時期だとイメージが湧きやすいと思うが。

所管課：市のホームページでも。イベント会社のPRの効果はある。

委員：体験は毎年ばらばらか。体験が増えたとか、昨年できなかったから今年体験をするという参加者の実態はあるか。

所管課：体験数は今年減っているが、年によってばらばら。天候に左右される。

委員：来場者4,000人に対して体験者240人では少ない印象。

所管課：アンケートなどでリピーターを把握したい。体験に関してはキャパがあるので、300人が限度か。

委員長：4,000人の中に外人はいるか。

所管課：カウントはしていないが、体験者の中にもいる。留学生など。

委員：「鯖江に来るともっと深くゆっくりいられますよ」といったPRは。

所管課：そういったPRもしている。軒下工房の職人塾にも都内から参加する方がいると聞いている。

委員：次につながる、鯖江につながるPRは。

所管課：ふるさと納税、FAAVO、移住定住のPRも。首都圏の販促や産地の来訪につなげるよう拡充していく。

委員：ものづくりのイベントだが鯖江ブランドとして農産物のPRは。

所管課：オール鯖江という考え方はある。昔は農産物を一緒に出すという働きかけもあった。考え方は様々。連携できるところは連携していきたい。丹南エリアでというPRも考えている。

委員長：情報発信について戦略を。

所管課：イベント併せての情報発信は大切、海外ということであれば、アウトバウンドとインバウンドと併せて。日本政府観光局（JNTO）ともタイアップして行いたい。

<方向性判断>

委員長：今までの委員の意見をまとめると「維持」か「内容拡大」になると思うがいかがか。

所管課：慶応大学メディアデザイン研究科伝統工芸未来プロジェクトとの連携を考えている。JR東日本の企画、JNTOとのタイアップで。

委員長：拡大ということであれば場所も変えられるか。

所管課：予算は今のままでも。

委員長：内容拡大として、出店に関しても参加費を徴収するなど考えて。

所管課：イニシャルの部分は市で。売る上げが出てくればそういうしかけも考えたい。

委員長：北陸新幹線開通、国体据えて、エリアで連携して事業を行いブランド化しておくことが大切。

委員：来年すぐにどうこうというわけではないと思う。長い目で見るということであれば、内容拡大でも。

委員：ここで内容拡大とすることによって頑張っていたきたくというのは。

委員長：内容が変わっても鯖江から外への情報発信を行う事業として拡大して行ってほしい

ということで、ここでは「内容拡大」とします。

3 閉会

<総括> (斉藤室長)

○公民館合宿通学事業

ボランティアの協力がないと事業が成り立たないという点で、継続性を保つためにボランティアの意識向上を工夫してほしいという意味合いで「事務改善」といった評価と思う。

○やっしまつり事業交付金

主管団体との話し合いをより深めてほしい。若い人を巻き込むという視点からよさこいの連携を進めてほしいという意味合いで「事務改善」という評価だったかと思う。

○男女共同参画推進大会（フェスタ）開催事業

将来に向けて重要なことなので継続に向けての「維持」ということ。

○さばえ菜花まつり開催事業

他のイベントとの関連、種の管理を徹底することで「維持」ということ

○日野川砂礫河原再生事業

再生事業とイベントを切り離し、事業名も工夫してほしいという意味での「事務改善」

○2K540 鯖江ものづくりいいもの見本市

新幹線、福井国体を見据えて情報発信を進めること、また地域間の連携も視野に入れて将来に向けての「内容拡大」ということだったかと思う

→その中で公民館合宿だが、「事務改善」というところで強く当たるのでは。「維持」としてボランティアの意識向上を付帯条件としても良いのでは。検討いただきたい。

委員長：維持というとそのまま続いてしまう恐れがあるが、国などの補助金がなくなり自主財源のみとなった場合でも続けていくということで、覚悟は感じられた。国に対しての報告書作成や成果を出すこと準備してほしい。継続していくためのベースを整えるという意味では事務改善でも。

委員：先ほどの付帯条項で、維持でも。

委員：地域で温度差がある。効果が出るような改善を。

委員：条件付きの維持を

委員：内部評価と外部評価の整合性という観点で、維持とした場合に外部評価が内部評価を認めたということになるのでは。同じ維持としても内容を理解してもらいたい。

委員長：「維持」ということで。条件整備をきちっとやってほしいということ。

<市長への報告について>

武井委員長、井上副委員長兩名にて市長へ報告書提出

日時：平成 28 年 1 月 13 日（水）13：30～

<感想>

委員：イベントがたくさんあることと楽しいということと同時に人材育成の場となっている。市民協働のまちとして浸透しているのだと思う。漫然とイベントを繰り返すのではなく、イベントについて振り返り、フィードバックをすることで市民としても事業を検証していきたいと感じた。

委員：評価というと縮小になりがち。行政経営という視点で、チャンスを活かす形になれば。何年かあとに、またこのイベントの評価が生かされていつか確認したいと思う。

委員：イベントは市民のために行われているが、関わる方によっては温度差があると思う。市民のためによりよいものであるためにも、今に満足せず、模索して行ってほしい。これからも一緒に考えていきたい。

委員：市の仕事に関してまだまだ知らなかった。市の職員が真面目に取り組んでいるのも感じた。いろいろ意見を言ったが、鯖江市が良くなればと思って。職員もいい方向に導いてくれれば。

委員：知らない事業も多かった。事業が多いと聞くが、それが人口増などにつながっているのかな。幹のまつりがないので、そのおかげでいろいろな事業が展開されているのか。今回の委員会の意見が、事業に反映されれば。

委員：内部評価について維持が多いのが見受けられる。外部評価と合わないのもその影響かと思う。内部評価も市民目線で行っていただきたい。

委員長：事業も多様化しているが、内部評価者の意識も変わってもらえれば。今後は、先に悪いようなことをどうするか、政策に含めておかなければならないと感じる。